

a 学校教育目標	知・徳・体のバランスのとれた人間力の向上	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】「響き合う学校文化の創造—二中から日本全国へ—」 【ビジョン】「言葉の力と体験の力によって『響き合う力』を育む」 【キャッチコピー】「響き合っていますか、私たち(校訓『響き合う二中っ子』の実現)
----------	----------------------	----------------------	--

評価計画		自己評価					改善方策	学校関係者評価							
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
知育	◎授業研究の推進—授業力の向上 ・言語技術の活用 ・校内研修の充実 ○指導目標・達成目標の明確化 ◎相互作用の充実—ベアーク・グループワーク・クラストーク ◎総合的な学習の時間と各教科等との接続 ◎読書活動の充実 ◎家庭学習の習慣化	☆校内研修会(授業研究-年間10回)の100%実施			6回	15回	130.0%	A	計画どおり実施できた。	○今年度の 文部科学省主催の全国学力・学習状況調査結果は全国平均比-2.7ポイント(国語A+1.5,国語B-4.4,数学A-2.0,数学B+2.8) であった。広島県教育委員会主催の 高橋嘉本の定着状況調査は県平均比+6.7ポイント(国語+1.7,数学+1.1,英語+3.8) であった。改善策として、 授業の工夫・改善や学力向上のためのドリルタイム(『探究』の時間の設定、宿題の内容の充実と提出の徹底に努める。	○授業と家庭学習(宿題)の接続による学力の向上と学習意欲の高揚を推進する。「 家庭学習を毎日2時間以上実行する 」の徹底を図る。 ○毎月一回、 全校朝会における本の読み聞かせを計画し実行する。	4			・生徒のテレビの視聴時間等についても、アンケートの項目に加えてもよいのでは ないか。家庭学習や読書、手伝いなども関係するのではないかと 思われる。 ・努力を重ねられている様子がよく理解できる。 ・生徒と保護者のアンケート項目を同一化し、分析に役立てるとよい。また、保護者への内容は、わかりやすくなるよう検討が必要である。
		☆生徒の授業満足度70%以上			67.0%	71.0%	101.4%	A	授業の工夫・改善をさらに推進する必要がある。		4				
		☆全国学力調査・基礎基本定着状況調査・標準学力調査結果の全国平均・広島県平均比各2ポイントアップ			-0.17	1.04	52.0%	D	国語の活用型・数学の習得型教育、1年理科の基礎的な学力を強化する必要がある。			4			
		☆補充的・発展的な学習(少人数・習熟度別授業、選択教科、探究の時間)の生徒満足度60%以上			59.0%	60.0%	100.0%	A	補充的・発展的な学習はまずまずの成果を上げているが、計画的・継続的な取り組みが必要である。			4			
		☆各教科等での相互作用(ベアーク・グループワーク・クラストーク-対話「聞く・答える・問い返す」)の生徒満足度60%以上			49.0%	55.0%	91.7%	B	すべての教科・領域において毎回、グループワークやグループワークを設定する必要がある。			4			
		☆毎月1冊以上の読書の実行70%以上			48.0%	55.0%	78.6%	C	読書の習慣化が停滞している。			4			
		☆課された宿題の提出率90%以上			68.0%	72.0%	80.0%	B	宿題の提出の徹底を図る必要がある。			4			
		☆毎日の家庭学習2時間以上の達成率70%以上			25.0%	36.0%	51.4%	D	家庭学習の習慣化を定着させる必要がある。授業の予習・復習と宿題をリンクさせる必要がある。			4			
徳育	◎積極的な生徒指導の推進 ◎生活三訓(挨拶・時間厳守・整理整頓)の徹底 ◎学習規律(授業規律—立腹)の徹底 ◎総合単元的な道徳学習の充実 礼儀・感謝・思いやりの心・友情・人格の尊重・広い心・生命の尊重・集団生活の向上・郷土愛・伝統文化の継承 ◎表現力(音声表現・文字言語表現・身体表現)の育成	☆「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」の生徒・保護者評価70%以上			56.5%	56.0%	80.0%	B	教育相談的な生徒指導が求められている。	○叱ったり罰を与えたりするだけでなく、問題行動を未然に防止することを大切にすることからも、 心に響く積極的な生徒指導を推進していく。 具体的には、道徳を要とし、教科や総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連を図る「総合単元的な道徳学習」をいっそう中身の濃いものにしていく。その手段として、言葉の力(言語活動の充実)や体験の力(ミュージカル、全校合唱、職場体験学習、進路実現学習)によって、 道徳教育の充実、相互作用(対話)の成立、キャリア教育の充実、活用能力(思考力・判断力・表現力)の充実を図る。	○道徳の授業力 ¹ を上げる。一心に響く道徳授業の工夫・改善を図る。	4			・教師集団が一丸となり取り組んでおられる。先生方が生徒との距離感を縮め、生徒の長所をもっと認めることが大事だと思う。 ・生徒の失敗を助まじ、肯定的な評価を行うことにより、意欲につながっていく必要がある。 ・教育研究も、学校体制として進んでいることを実感できる。ミュージカルの取組みも、継続することが大切である。
		☆「先生は生徒に熱心に指導してくれる」の生徒・保護者評価70%以上			74.0%	77.0%	110.0%	A	積極的な生徒指導をさらに推進していく必要がある。			4			
		☆「二中は生活三訓(挨拶・時間厳守・整理整頓(掃除・靴揃えを含む))を徹底している」の生徒評価70%以上			61.0%	65.0%	92.8%	B	生活三訓に「立腹」を加えた。生活四訓の徹底を図っていく必要がある。			4			
		☆道徳の授業への生徒満足度70%以上			62.0%	68.0%	97.1%	B	道徳授業の工夫・改善をいっそう推進していくことが求められる。			4			
		☆「道徳」を要として、各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連を図った、総合単元的な道徳学習の生徒満足度60%以上			72.0%	77.0%	128.3%	A	総合単元的な道徳学習のイメージが定着しつつある。			4			
☆道徳の授業での道徳的葛藤討論(道徳的価値に係る相互作用)の生徒満足度60%以上			55.0%	63.0%	105.0%	A	毎回、道徳的葛藤討論の場面を設定し、道徳性の発達段階を考慮した展開に努める必要がある。			4					
体育	◎部活動の充実 ◎食教育の推進 ・朝ごはんを食べる	☆部活動への積極的参加に係る生徒・保護者評価(満足度)80%以上			83.0%	84.5%	105.6%	A	生徒の部活動への参加意欲は旺盛であるが、部活動に参加しない生徒への個別指導が必要である。	○食教育の推進と 部活動の充実 に力を入れていく。	4			・引き続き部活動の充実に取り組んでください。 ・先生方には、もっと積極的に指導にあたってほしい。	
		☆部活動指導に係る教師への生徒・保護者評価(満足度)70%以上			63.0%	76.5%	109.3%	A	教員の部活動指導のかかわりをいっそう強化していく必要がある。			4			
		☆「毎日朝ごはんを食べる」の生徒・保護者評価90%以上			88.5%	90.0%	98.3%	A	毎日、朝ごはんを食べる生徒が100%になるよう、啓発していく必要がある。			4			
		☆新体力テスト結果の全国平均比2ポイントアップ			1.6ポイント	1.6ポイント	80.0%	B	体育の時間や部活動を通して体力強化にいっそう努めていく必要がある。			4			
情報発信	◎小中高大連携の推進 ◎授業公開 ◎研究公開 ◎外部人材の活用 ◎学校関係者評価の充実 ◎各種だより及びホームページの充実	☆小中高大との授業等交流年間5回の100%実施			15回	15回	300.0%	A	授業研究等の校内研修や生徒指導に係る小・中連携及びキャリア教育に係る中・高連携を進めている。	○今後もいっそう小中高連携(学力向上、生徒指導)、中高連携(キャリア教育)、中大連携(教育実習、特別支援教育)を推進していく。	○学校評価の充実を図り、学校力の向上を図る。 ○ 学校からの情報発信を積極的に行い、保護者や地域の皆様から、本校教育の理解と協力を得る。	4			・保護者のアンケートに「わからない」という回答が多いというは、もっと学校への理解を求めるためにも情報発信が大切だと思う。 ・地域の教育力を活用するため、優れた人材の活用を積極的に進めてほしいと思う。
		☆授業公開年間5回以上の100%実施			3回	6回	120.0%	A	計画どおり実施できた。			4			
		☆道徳、総合的な学習の時間、特別活動等での外部人材の活用30人以上			60人	120人	400.0%	A	総合的な学習の時間(1年生のミュージカル、2年生の職場体験学習、3年生の進路実現学習、体育的)や特別活動(トレ掃除に学ぶ活動)を通して積極的に活用している。			4			
		☆学校だよりの発刊回数15以上、ホームページの更新回数50以上の100%実施			38回	82回	126.2%	A	学校だよりの発刊は20号、ホームページの更新回数も62回に達した。			4			

本年度の重点目標については○印で示す。

【:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80
D: (できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。